公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信 2017年5月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
バリアフリー探鳥会（京都支部）・・・・・1
◆喫茶店やレストランを利用した探鳥会後の交流会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・5
（2017年3月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・7
・来月号から探鳥会スタッフ通信メール版の送信形態を移行します
・2017年度「会員を増やすための探鳥会」に参加しませんか
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・8
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・9
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・9

◆探鳥会訪問記

バリアフリー探鳥会（京都支部）

3月20日に京都支部で「バリアフリー探鳥会」が開催されるということなので参加してきました。「体の不自由な人のための探鳥会」は、これまでもいくつかの支部で行われてきましたが、最近ではもりおかの「視覚障碍者のための探鳥会」が記憶に新しいところです。
（探鳥会スタッフ通信2016年8月に記載されています。
http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201608.pdf ）
今回京都支部で行われた探鳥会は、「肢体不自由」という手や足に障碍のある方を対象とした探鳥会です。一口に身体障碍といっても、肢体不自由、視覚障碍、聴覚障碍、呼吸器や腎臓等の内部障碍など多種多様です。そのうちもっとも多いのが肢体不自由で、障碍者手帳を交付されている人の半数に及びます。今回は、肢体不自由の方とその介助者の方を対象に実施されました。

【日　時】2017年3月20日（月・祝）
14時～16時
【場　所】鴨川河川敷「北大路橋」から「出町柳」までの1.4㎞
【天　候】晴れ
【参加者】障害者18名（協会会員16名、一般応募1名、宮野谷さん）、介助者2名、計20名
【スタッフ】京都支部10名　財団職員4名
【観察した鳥の種数】25種
【協力】NPO法人京都市肢体障害者協会

■宮野谷さんとの出会い

この探鳥会は、約1年前に宮野谷さんが車いすで支部の探鳥会に参加されたことがきっかけで動き出しました。宮野谷さんは2歳の時に交通事故で脊髄損傷となり、それ以来車いすで生活されています。でも子供のころから野鳥が大好きで、図鑑をめくりながら「きっと本物の鳥を見る機会は一生ないんだろうなあ。」とあきらめていたのだそうです。
しかしその後、宮野谷さんは音楽の道に進まれて、今では講演や演奏会で全国各地に飛び回る生活をおくられています。その合間に探鳥会にも参加されていて、京都支部の探鳥会に参加されたときに、支部の担当の坂根さんから
「車いす利用者を対象としたバリアフリー探鳥会を企画したいので協力していただけませんか。」
と提案され、これがきっかけとなりこの探鳥会が開催されることになりました。

■バリアフリー探鳥会の企画

京都支部の坂根さんは、（公財）京都市身体障害者団体連合会から紹介された、NPO 法人京都市肢体障害者協会の日野事務局長と何度も打ち合わせをおこない、現地の下見をしました。

探鳥会の企画にあたっては、まず小鳥の観察よりは水鳥がよいだろうということで時期は冬、しかも少し暖かくなってくる３月ということにしました。打ち合わせを通して、「コースは平たんな河川敷で歩行が楽な川下に向かって下るようなコースがよい。」「途中に身障者用のトイレがあるところがよい。」「最寄り駅からのアクセスがよく駅にエレベーターがあるところがよい。」といったアドバイスを受けて場所探しを行い、鴨川河川敷を「北大路」から「出町柳」へと下るおよそ 1.4 ㎞ほどのコースに絞られてきました。

■探鳥会の当日の模様

当日、集合場所へ行ってみると、すでに河川敷の舗装路に 10 台ほどの車いすに乗った参加者が介助者の方とともに集まっており、いつもの探鳥会とは雰囲気が異なっていました。

時間になり、坂根さんのあいさつに続いて、2～3 組ごとに班分けを行い、それぞれに支部の経験豊富なリーダーがつきました。

観察器具についても財団の側から協力を申し出て、いくつか工夫を凝らしていました。一つは、造形作家の田中梅夫様のご協力で、今回このために試作された「車いす用の望遠鏡の雲台」を宮野谷さんの車いすに取り付け、その使い勝手を試行しました。

また、ベルボン株式会社様からは車いすでも脚に干渉しないで望遠鏡をのぞくことができる三脚を貸与していただき、（株）ニコンイメージングジャパン様からは、モナーク７を 20 台貸与していただきました。

河川敷の観察は、数種類のカモの群れやアオサギが餌をついばんでいる様子、大きくゆっくり羽ばたいて飛んでいる様子に大きな歓声が上がっていました。特に印象的だったのは、支部の告知を見てお父さんと一緒に参加された小学３年生の男の子が、

「いつも図鑑で鳥をみていた。本物を見ることができて楽しかった！」

といっていたことです。この子も宮野谷さんと同じく、幼いころの交通事故で脊髄損傷となり、車いすの生活をおくっているそうです。

バードウォッチングにはちょうど良い川幅で観察条件がよかったこと、河川敷を通行する自転車も多くはなく車いすや三脚との接触もなかったこと、天気の良い暖かい日だったこと、観察器具が充実していたことなどが功を奏して、この日の探鳥会は大成功を収めました。

▲探鳥会の様子

取材も、NHK、KBS 京都、京都新聞、毎日新聞の４社が取材に同行し、早速翌日の新聞やテレビでこの時の模様が紹介されました。三脚については、車いすで望遠鏡をのぞくためには、深く前へ出る必要があるため、エレベーター機能を使うと膝に干渉し望遠鏡の高さ調節ができないということが判明しました。また、双眼鏡については指に障害のある方にはピントリングを回すことができないなどの不具合があったこともやってみて初めて分かりました。

■心のバリアフリー

終了後は支部の事務所にお邪魔して、関係者で反省会を行いました。

その中で印象的だったのは、今回協力という形で参加していただいた NPO 法人京都市肢体障害者協会の日野事務局長と宮野谷さんの「施設のバリアフリーと心のバリアフリーがある。」という言葉です。

日本は障碍者団体の働きかけもあり、バリアフリーに配慮された施設が一般的となり、街へ出る障碍者の方も増えてきました。しかし、実情はどうしても外出しなければならない場合を除いて家に閉じこもっている人がほとんどです。こうした方々も自然や野鳥を楽しむことを知っていただければ、もっと人生に対して前向きになれるのではないか。障碍者やその周りの人たちも「危ないからダメ」ではなく、積極的に外の世界へ出ていく「心のバリアフリー」を身につけてほしい。健常者の人もそれを手助けしてほしいということをおっしゃっていました。

▲探鳥会の様子

その言葉の中に、日野事務局長の自分たちが声を上げて社会を変えていこうという力強い意欲を感じました。

■探鳥会のバリアフリー

反省会が終わって東京へ向かう帰りの新幹線の中では、探鳥会のバリアフリーについて考えていました。

この先、日本が高齢化していく過程で、全国の探鳥会では、体力が衰えたご高齢の方の参加が増えてくるかもしれません。そうなってくると、もしかしたら障碍者手帳を持った障碍者と体力的に衰えた高齢者との間に境界はなく、バリアフリー探鳥会は特別なことではなくなっていくのかもしれません。

また、バリアフリーという言葉をもう少し広義に考えれば、これまでも各支部で「young 探鳥会」や「女子探鳥会」「子ども（親子）探鳥会」など、ある特定の層に対象を絞った取り組みが行われてきました。こうした探鳥会もある意味でバリアフリー化をねらったものだったのではないかと思います。

自分とは異なる身体的特徴を持った人に、鳥を見ることを楽しんでもらうためには、探鳥会を企画するリーダーにも想像力が必要になってきます。また、様々な年齢層、性別のリーダーを育てていくことも重要になってくると思います。

あれこれと考える中で、今回のバリアフリー探鳥会は、今後の探鳥会をひもとくヒントがたくさん詰まったものだったのではないかと思えてきました。

（普及室／箱田敦只）

◆喫茶店やレストランを利用した探鳥会後の交流会

2016 年 11 月 26 日、栃木県宇都宮市大綱町で開催された、栃木ユース観察会・交流会に参加してきました。今回は、交流会の様子について紹介します。交流会では、リーダーの方々の参加者への配慮や、探鳥会の後に交流会を行うメリットがうかがえました。

■宇都宮アルプスの森「京屋茶舗（きょうやちゃほ）」

田園風景を広がる里山の裾野に、ひっそりと佇む古民家風のカフェ「宇都宮アルプスの森 京屋茶舗」。落ち着いた雰囲気の店内は、時間の流れもゆっくりしているようで、ついつい長居をしてしまいそう。テラスは、川の音と野鳥たちの声が聞こえ、木々の隙間からは広がる田んぼの風景が楽しめます。

このカフェは、日本野鳥の会栃木のリーダーが、開店の準備段階から関わっていて、年に数回、この場所で観察会と交流会を行うようになったとのことです。

■前半は探鳥会、後半は交流会

栃木ユース観察会で、９時から１時間半程度のバードウォッチングの後、「京屋茶舗」にて１時間半の交流会を開催しました。観察会は初心者向けで、観察数は 20 種程度。河川では、カワセミやイソシギ、ハクセキレイ、キセキレイ。林では、カラ類やコゲラ等を観察。腹７分目くらいの中身です。

そして、その後、交流会に移って行きます。ちなみに、参加費は、受付の段階で、探鳥会 200 円、交流会 500 円の合計 700 円。もちろん探鳥会のみの参加も可です。

さて、交流会は、お店の２階を借り切っての開催です。スペースは、20 名くらいが座れるくらい。コーヒーかお茶にクッキーがついて 500 円とリーズナブルです。ちなみにコーヒーは、日本野鳥の会のオリジナルの「シマフクロウブレンド」です。

■参加者を受身にさせない心配り

それぞれのテーブルに参加者が座り、各テーブルにリーダーが最低１名は座っています。全体での話は、最初の挨拶程度。その後は、リーダーからの一方的な話ではなく、話題を提供し、参加者同士で話が進むように配慮していました。

この１時間半の中で、最初は受け身であった参加者が、野鳥を好きになったきっかけや、自分のフィールドの話など、積極的に話をするようになっていました。探鳥会では、リーダーは野鳥を見つけ解説をするという教える立場、参加者は聞く立場になってしまいがちですが、交流会では双方向の流れを作れます。この時間で、参加者の緊張感も解け、リーダーや日本野鳥の会との距離も縮まり、また参加したいと思うようになります。

▲交流会の様子

■カフェのある探鳥地の開拓、あるいは、探鳥地にあるカフェの活用

もし探鳥地にカフェがあるような場所、あるいは、カフェがある場所でそれなりにバードウォッチングができる場所があれば、「探鳥会＋交流会」が開催できるのではないでしょうか。ずいぶん前の話になりますが、オホーツク支部では、探鳥会の後、街中のミスタードーナツに移動し、初参加者やビギナーとコミュニケーションをとっていると聞きました。

探鳥会の参加者との距離を縮め、次の探鳥会に参加したいという気持ちになってもらうために、カフェ等を活用した交流会を行ってみてはいかがでしょうか。

※なお、栃木ユースの観察会の様子は、探鳥会スタッフ通信２０１７年２月号をご覧ください。（http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201702.pdf）

（普及室／富岡辰先）

◆探鳥会保険集計結果（2017 年 3 月分）

3 月は 66 支部からご報告をいただき、計 261 回の探鳥会が開催され、のべ 7,386 人が参加されました。

表 1. 3 月の探鳥会保険集計結果（2017 年 3 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	21	8	1	30
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	1	14	0	3	17
滝川支部	1	10	1	1	12
道北支部	−	−	−	−	−
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	118	46	10	174
小樽支部	2	9	6	2	17
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	22	9	3	34
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	10	7	2	19
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	18	0	2	20
秋田県支部	3	31	4	3	38
山形県支部	3	27	14	7	48
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	0	0	0	0	0
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	3	41	12	6	59
ふくしま	2	46	1	4	51
郡山支部	2	45	0	6	51
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	3	0	11	14
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	17	2	1	20
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	12	137	67	20	224
栃木	0	0	0	0	0
群馬	10	102	94	41	237
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	15	388	125	89	602
千葉県	10	157	44	44	245
東京	13	536	37	68	641
奥多摩支部	13	224	76	67	367
神奈川支部	14	221	82	47	350
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	48	26	5	79
石川	2	42	13	5	60
福井県	2	13	20	3	36
長野支部	1	20	5	2	27
軽井沢支部	1	12	4	1	17
諏訪支部	1	12	27	2	41
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	40	10	4	54
富士山麓支部	1	3	2	3	8
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	22	2	1	25
南富士支部	2	70	19	3	92
南伊豆	1	9	0	2	11
静岡支部	1	8	5	3	16
遠江	4	77	10	11	98
愛知県支部	14	208	191	35	434
岐阜	-	-	-	-	-
三重	5	56	33	9	98
奈良支部	5	136	26	10	172
和歌山県支部	-	-	-	-	-
滋賀	4	25	40	7	72
京都支部	9	179	86	30	295
大阪支部	23	547	99	101	747
ひょうご	7	147	142	21	310
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	32	10	3	45
島根県支部	2	11	11	2	24
岡山県支部	4	100	55	12	167
広島県支部	-	-	-	-	-
山口県支部	5	48	11	5	64
香川県支部	2	93	52	4	149
徳島県支部	5	84	11	5	100
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	5	70	32	9	111
北九州支部	3	58	12	3	73
福岡支部	8	141	39	17	197
筑豊支部	2	19	3	2	24
筑後支部	4	33	13	4	50
佐賀県支部	3	58	31	6	95
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	4	51	77	11	139
大分県支部	2	21	32	3	56
宮崎県支部	2	21	6	2	29
鹿児島	3	56	37	8	101
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	261	4767	1827	792	7386

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■来月号から探鳥会スタッフ通信メール版の送信形態を移行します■

　これまで探鳥会スタッフ通信メール版は、Outlook で BCC を使って送信していましたが、来月６月号から、よりセキュリティの整った財団の支援者管理システムを使って行います。
　それに伴い、以下について、ご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。

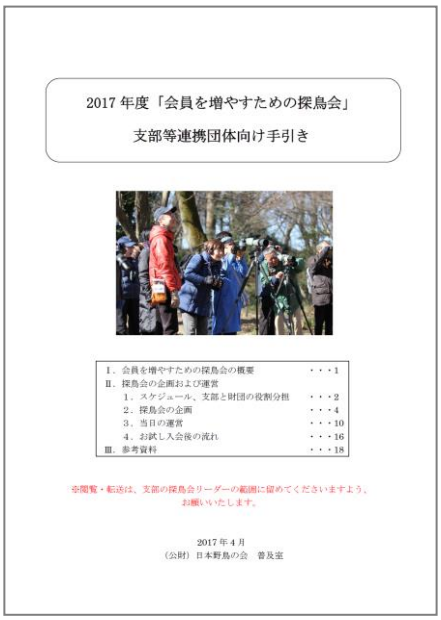
（１）当会で不定期に送っているイベントの案内などが届く場合があります。
→届いたイベントの案内などが、今後、不要の場合は、ダイレクトメールの末尾にある手続きに従い、配信を停止することができます。なお停止した場合も探鳥会スタッフ通信は配信されます。

（２）探鳥会スタッフ通信が２つのアドレスに配信される場合があります。
→６月号が２つのアドレスに届いた方で、今後、配信されるアドレスを１つにしたい場合は、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

　その他、「これまで届いていたのに、届かなくなった」など何らかの不具合がありましたら、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

■2017 年度「会員を増やすための探鳥会」に参加しませんか■

　今年度も希望される全国の支部の皆さんと一緒に「会員を増やすための探鳥会」を開催したいと思っております。
　５月 12 日（金）に、各支部事務局宛に、「支部等連携団体向け手引き」と概要をまとめた DVD 動画（7 分）を添えて、2017 年度のご案内をお送りいたしました。支部内で、ご検討いただき、６月 25 日（日）までに「参加」「不参加」のご連絡をお待ちしております。
　支部向けの手引きや DVD 動画をご希望の方には、別途お送りしますので、①支部名 ②お名前 ③送り先のご住所 ④電話番号 を記入し、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。


2017 年度「会員を増やすための探鳥会」
支部等連携団体向け手引き

Ⅰ．会員を増やすための探鳥会の概要　・・・1
Ⅱ．探鳥会の企画および運営
　1．スケジュール、支部と財団の役割分担　・・・2
　2．探鳥会の企画　・・・4
　3．当日の運営　・・・10
　4．お試し入会後の流れ　・・・16
Ⅲ．参考資料　・・・18

※閲覧・転送は、支部の探鳥会リーダーの範囲に留めてくださいますよう、
お願いいたします。

2017 年 4 月
（公財）日本野鳥の会　普及室

▲2017 年度「会員を増やすための探鳥会」支部等連携団体向け手引き　表紙

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信５月号の電子メール版の購読者数は、先月と変わらず 869 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２. 探鳥会スタッフ通信５月号電子メール版の購読者数（2017 年５月 12 日現在）

支部	購読者数
小清水	1
オホーツク支部	6
根室支部	0
釧路支部	2
十勝支部	70
旭川支部	4
滝川支部	1
道北支部	1
江別支部	0
札幌支部	4
小樽支部	3
苫小牧支部	2
室蘭支部	5
函館支部	0
道南桧山	2
青森県支部	1
弘前支部	4
秋田県支部	3
山形県支部	5
宮古支部	1
もりおか	5
北上支部	2
宮城県支部	39
ふくしま	4
郡山支部	1
二本松	1
白河支部	2
会津支部	2
奥会津連合	0
いわき支部	1
福島県相双支部	0
南相馬	0
茨城県	21
栃木	54
群馬	25
吾妻	1
埼玉	39
千葉県	21
東京	61
奥多摩支部	47
神奈川支部	21
新潟県	2
佐渡支部	1
富山	3
石川	29

支部	購読者数
福井県	10
長野支部	2
軽井沢支部	2
諏訪支部	5
木曽支部	1
伊那谷支部	1
甲府支部	4
富士山麓支部	0
東富士	0
沼津支部	3
南富士支部	2
南伊豆	2
静岡支部	2
遠江	12
愛知県支部	33
岐阜	5
三重	19
奈良支部	3
和歌山県支部	5
滋賀	19
京都支部	31
大阪支部	26
ひょうご	18
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
島根県支部	10
岡山県支部	25
広島県支部	8
山口県支部	4
香川県支部	6
徳島県支部	6
高知支部	1
愛媛	13
北九州	12
福岡支部	11
筑豊支部	21
筑後支部	6
佐賀県支部	5
長崎県支部	1
熊本県支部	14
大分県支部	4
宮崎県支部	4
鹿児島	3
やんばる支部	0
石垣島支部	1
西表支部	2
合計	869

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

バードウィーク中に開催された探鳥会はいかがでしたでしょうか？開催されたみなさま、おつかれさまでした。

私が初めて参加した探鳥会も、バードウィーク中の探鳥会でした。はじめこそ緊張しましたが、いろいろな方とお話しする機会をいただいて、とても楽しい時間を過ごすことができました。

今回で、探鳥会スタッフ通信は 50 号の節目を迎えました。リーダーのみなさまにお会いできるのを楽しみに思うとともに、私自身もみなさまの役に立てる記事を書けるようになりたいと思っております。これからも、探鳥会スタッフ通信をよろしくお願いいたします。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第50号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017年5月18日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org